

I 部活動の意義と課題

1 部活動の意義

- ・部活動は、生徒の自主的、自発的な参加により行われるものであり、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、学校教育の一環として、学習指導要領に位置付けられた活動である。
- ・部活動に参加する生徒にとっては、スポーツ、芸術文化等の幅広い活動機会を得られるとともに、体力や技能の向上に資するだけでなく、教科学習とは異なる集団での活動を通じた人間形成の機会でもある。部活動は多様な生徒が活動できる場であり、豊かな学校生活を実現する役割を有する。

2 部活動の課題

(1) 少子化の影響による単一の学校での多様な部活動の難しさ

- ・少子化に伴い、単一の学校で多様な部活動を維持することが困難となっている。
- ・大会参加の際には合同部活動として複数校でチームを作り参加しているが、学校ごとのマッチングや合同練習等の時間確保など課題も多い。

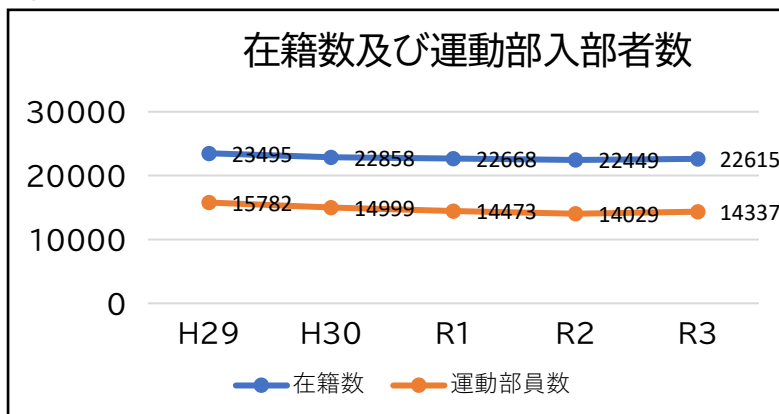
(2) 教師の負担

- ・教師の勤務を要しない日（休日）の活動も含めて、教師の献身的な勤務によって支えられており、長時間勤務の要因となっている。
- ・部活動ガイドラインの策定により、指導時間や休養日の設定等に改善はみられるものの、依然負担となっている。
- ・指導経験がない教師には多大な負担となっている。
- ・部活動指導員や民間指導者の派遣を行っているが、十分とは言えない。

II 千葉市の運動部活動の現状について

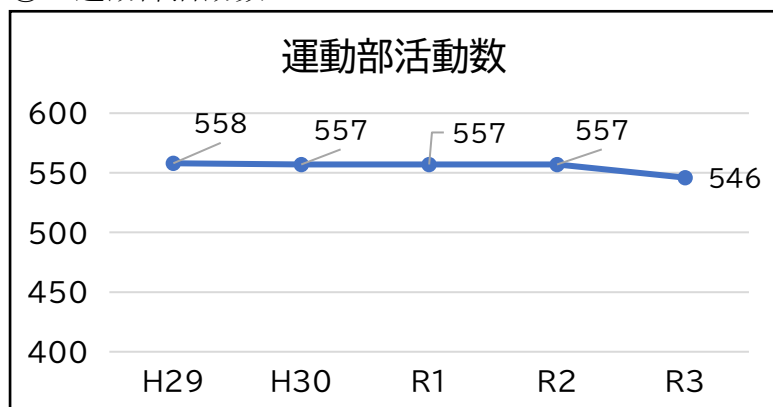
1 千葉市運動部活動の現状

① 運動部入部者数



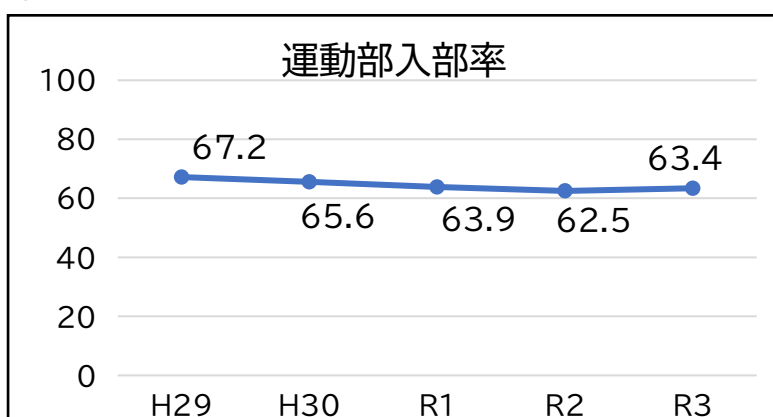
千葉市中学校における生徒の在籍数及び運動部活動入部者数を見ると、在籍数は、年々減少傾向にあり、最近5年間で約900人減少している。また、運動部活動への入部者数も減少していて、最近5年間で約1,500人の減少が見られる。

② 運動部活動数



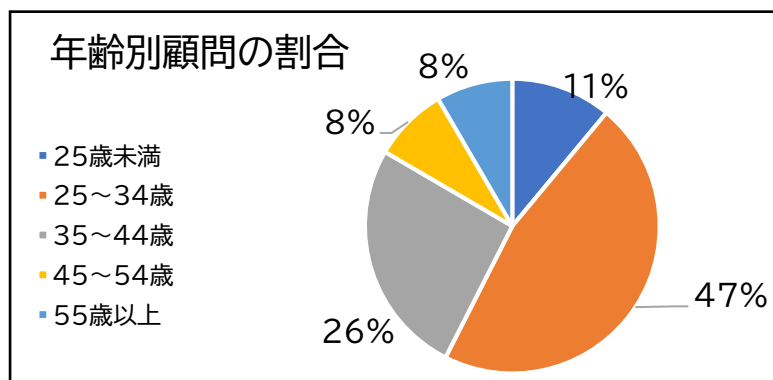
運動部活動数を見ると、最近5年間では、約560部とほぼ横ばい傾向となっている。(令和3年度、統合のため等から11部活減となっている。) 今後も550部前後で推移すると思われる。

③ 入部率



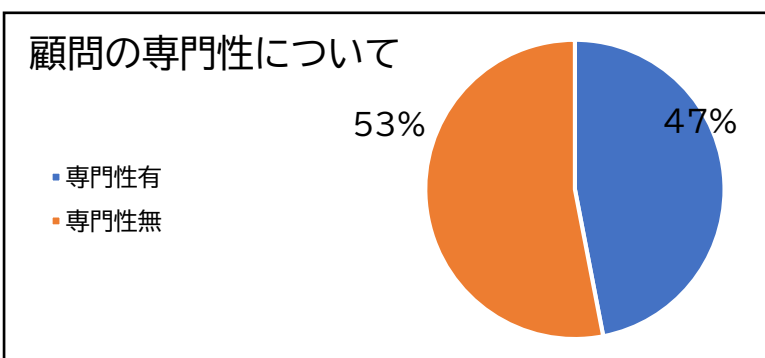
運動部活動への入部率は、最近5年間で減少傾向にあるものの、全体の約6割となっている。

④ 年齢別顧問の割合



運動部活動の顧問を年齢別に見ると、25～34歳が全体のほぼ半数を占めている。

⑤ 顧問の専門性

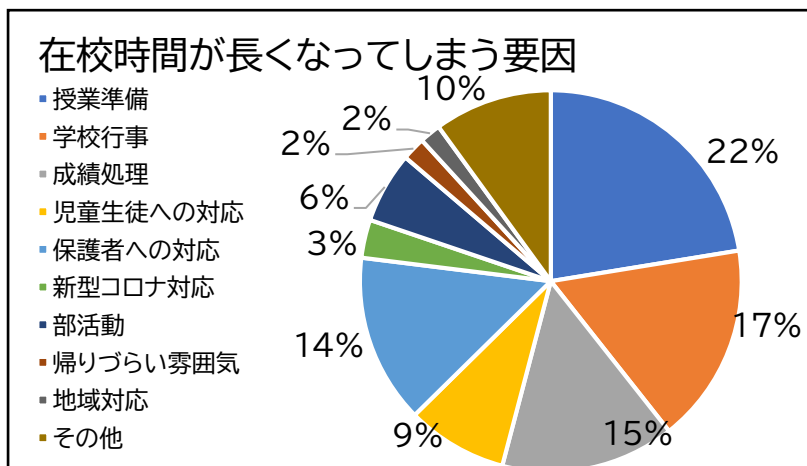


顧問の専門性(学生時代にその種目の経験がある等)については、顧問の約半数以上が指導経験のない教員で、平日や休日の活動はもちろん、大会の運営等にあたっている。

Ⅲ 運動部活動の課題

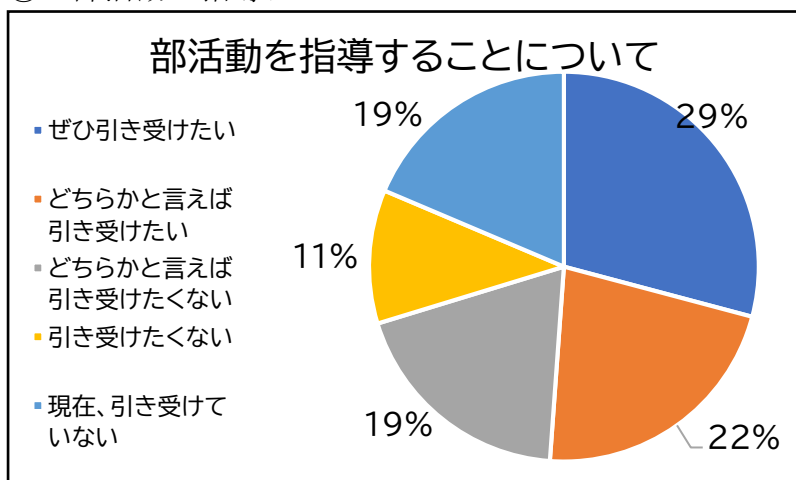
1. 教師の負担

① 在校時間の状況



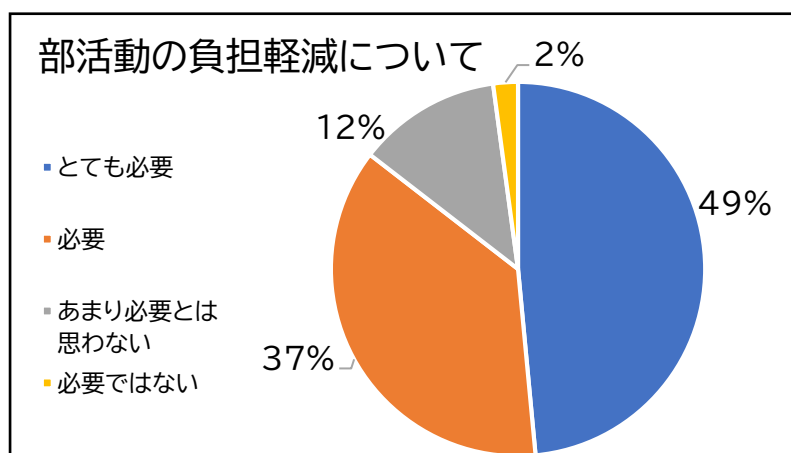
令和3年7月全教職員に実施したアンケートの結果を見ると、在校時間が長くなってしまう要因として、「部活動」は全体の6%となっている。

② 部活動の指導について



部活動を指導することについては、「ぜひ引き受けたい」「どちらかと言えば引き受けたい」と回答した教職員は、51%で全体の約半数となっている。一方で、「どちらかと言えば引き受けたくない」「引き受けたくない」教職員は全体の30%となっている。

③ 部活動の負担軽減の必要性について



部活動の負担軽減については、「とても必要」「必要」と回答した教職員は、86%となっていて、ほとんどの教職員が負担軽減のための改善を必要としている。

Ⅲ 令和３年度千葉市地域運動部活動推進事業の取組（事業計画）

１ 事業の概要

（１）趣旨・目的

休日に教員が部活動の指導に携わる必要がない環境を構築するため、部活動を地域の活動として実施できる環境を整えながら諸課題を整理し、令和５年度以降の休日の部活動の段階的な地域移行に向けた準備を進める。

（２）実施期間

（令和３年度）令和３年４月１２日（月）～令和４年３月１０日（木）

（３）事業の実際

① 陸上競技部の休日の活動を、土気アスリートクラブに移行する。

→クラブと連携した指導

- ・移行時期、活動内容等は、学校とクラブとで相談の上決定する。
- ・休日の指導を希望する教師は、兼職兼業の手続きを行う必要がある。

（土気アスリートクラブのコーチとして指導）

- ・生徒及び指導に従事する教員は、「スポーツ安全保険」に加入する。（国費負担）
- ・予算の管理は土気アスリートクラブ及び保健体育課で行う。
- ・休日の大会への参加について

地域スポーツ活動として大会参加が認められている場合は「クラブ」として参加。ただし、平日の学校部活動に参加する生徒のみで大会に参加する場合は、「学校」代表としての参加も可。（クラブコーチまたは顧問が引率）

- ・地域スポーツ活動として大会参加が認められていない場合は、「学校」代表として参加。（顧問が引率）
- ・クラブでの活動は、部活動ガイドラインの適用外となるが、その趣旨に準拠した活動を依頼する。

（２）陸上競技部以外の運動部活動についても、休日部活動の地域移行を検討し、諸条件が整った部から移行する。（専門外の顧問が担当する部を優先）

（３）事業の円滑な実施を図るため、学校代表者、保護者、地域スポーツ活動の運営団体、地域スポーツ関係者などで構成された検討・運営会議を設置する。

（４）生徒、保護者、教員へのアンケートを実施し、成果と課題を整理する。

２ 事業の実際

（１）拠点校の陸上競技部の休日の活動を、土気アスリートクラブに移行

① 会議・打合せ等

日 程	内 容	参加者
R2. 10～	受け入れ先の検討	スポーツ推進課担当者、保健体育課担当者
R3. 1	地域スポーツ団体への事業内容の説明	土気 AC 代表、保健体育課担当者
2	拠点校への事業内容の説明	大椎中学校校長、大椎中学校教頭、保健体育課担当者
3	地域スポーツ団体との打合せ	土気 AC 代表、保健体育課長、担当者

4/16	第1回検討会議	土気 AC 代表、土気 AC コーチ兼元保護者、大椎中学校校長、大椎中学校教頭、陸上部顧問、保健体育課担当者
11/12	第2回検討会議	土気 AC 代表、土気 AC コーチ兼元保護者、大椎中学校校長、大椎中学校教頭、陸上部顧問、保健体育課担当者
12/4	打合せ	土気 AC 代表、陸上競技部顧問、保健体育課担当者
R4. 1/8	打合せ	土気 AC 代表、保健体育課担当者
1/29	打合せ	土気 AC 代表、保健体育課担当者
2/5	打合せ	土気 AC 代表、保健体育課担当者

② 土気アスリートクラブでの活動計画及び活動の実際

回	日 程	活動場所	備 考
1	R3 12/4	昭和の森	実施
2	12/19	昭和の森	実施
3	12/25	昭和の森	実施
4	R4 1/8	昭和の森	雪のため活動中止
5	1/23	昭和の森	コロナのため中止
6	1/29	昭和の森	
7	2/5	昭和の森	
8	2/12	昭和の森	
9	2/20	昭和の森	
10	2/26	昭和の森	

※12月4日より10回の活動を計画していたが、コロナのため、土日の部活動が中止となり、学校・土気 AC とも協議の結果、地域部活動も活動を中止とした。

③ 活動の様子



- (2) 陸上競技部以外の運動部活動についても、休日部活動の地域移行を検討
 拠点校管理職とも相談の結果、部の休日の活動を地域のクラブを設立し指導を委託することについては見合わせる事となった。

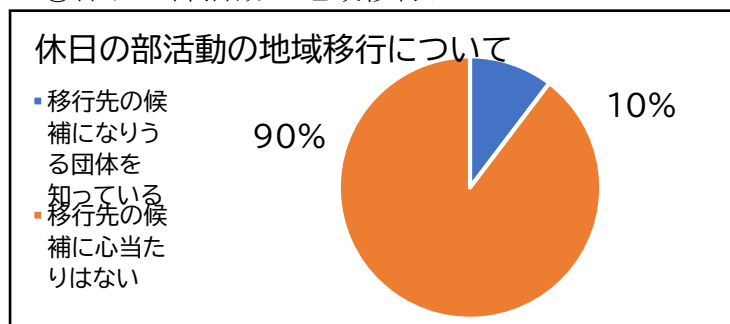
(3) 検討・運営会議等の実施

日程	内容	出席者	場所
4/16 (金)	1 5 : 3 0 第1回検討会議 1 開会あいさつ 2 自己紹介 3 事業内容説明 4 今後の取組 5 その他	土気 AC 代表、土気 AC コーチ 兼元保護者、大椎中学校校長、大椎中学校教頭、陸上部顧問、保健体育課担当者	大椎中学校
4/30 (金)	1 5 : 3 0 部活動保護者会での説明	土気 AC 代表、土気 AC コーチ 兼元保護者、陸上部顧問、保健体育課担当者	紙面開催
11/12(金)	1 7 : 0 0 第2回検討会議 1 開会あいさつ 2 実施までの流れについて 3 実施日の検討 4 その他	土気 AC 代表、土気 AC コーチ 兼元保護者、大椎中学校校長、陸上部顧問、保健体育課担当者	大椎中学校
未定	第3回検討・運営会議 1 事業報告 2 今後の予定		紙面開催

(4) アンケート調査等の実施

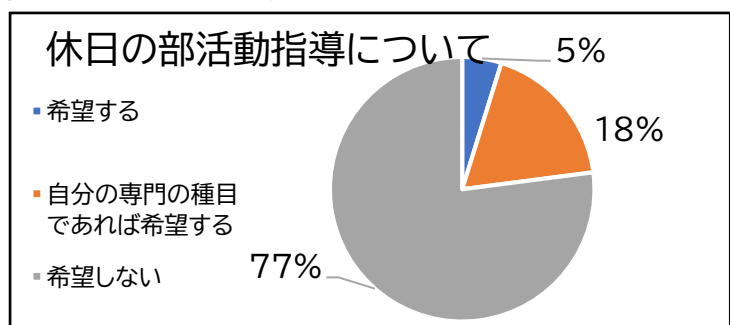
○教員への意向調査

①休日の部活動の地域移行について



休日の部活動の地域移行について令和3年7月全教職員に実施したアンケートの結果から、「移行先の候補となりうる団体を知っている」と回答した教職員は全体の10%だった。

②休日の部活動指導について

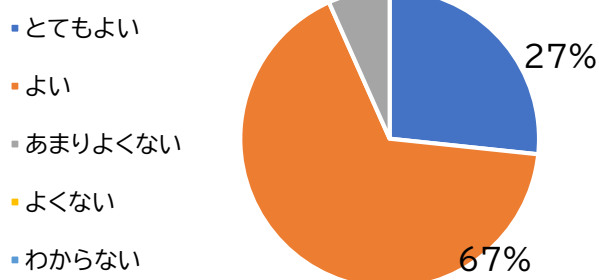


休日の部活動指導については、「希望する」「自分の専門の種目であれば希望する」と回答した教職員は23%、全体の1/4だった。全体の3/4が休日の部活動指導を「希望しない」と回答していて、受け入れ団体とともに、指導者の確保も課題の一つである。

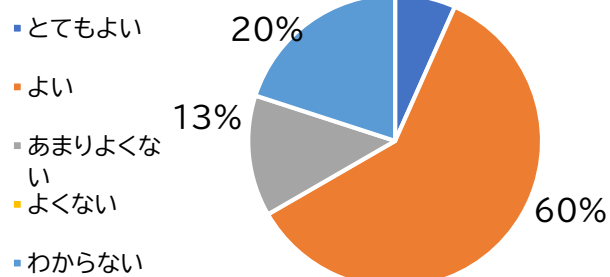
○ 生徒・保護者・学校へのアンケート結果

① 休日における地域部活動の活動について

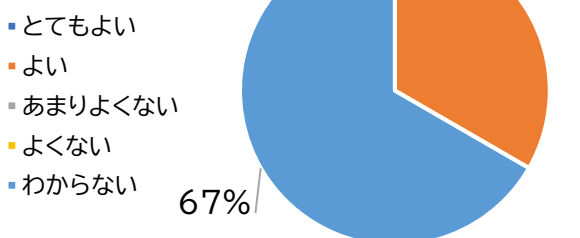
活動について(生徒)



活動について(保護者)



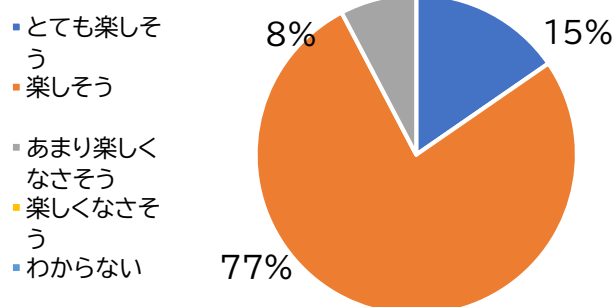
活動について(学校)



休日における地域部活動の活動について、生徒の94%、保護者の67%が「とてもよい」「よい」と回答している。また、コロナ禍のため、活動の様子を実際に参観できなかったことや実施回数が少なかったがこともあり、保護者の20%が「わからない」と回答している。

② 保護者から見た子どもの様子について

保護者から見た子どもの様子

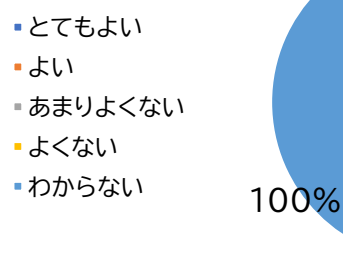


保護者から見た子どもの様子については、全体の92%が「とても楽しそう」「楽しそう」と回答している。

生徒の記述からも良かった点として「学校での活動とは違った練習内容で面白かった」や「違う学校の人とも交流できて楽しかった」等があげられていた。

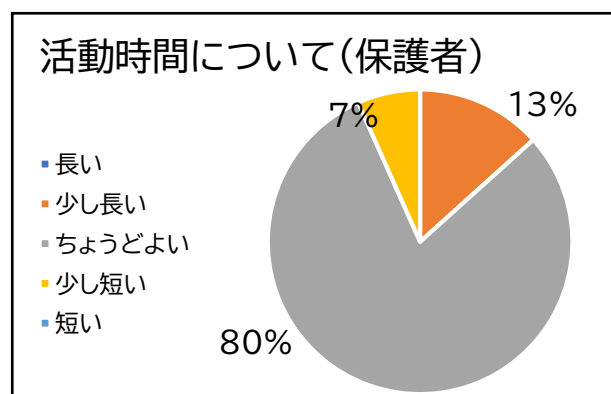
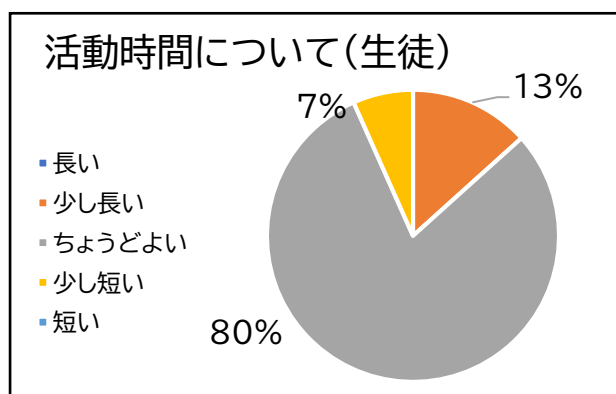
③ 保護者の反応について

保護者の反応(学校)



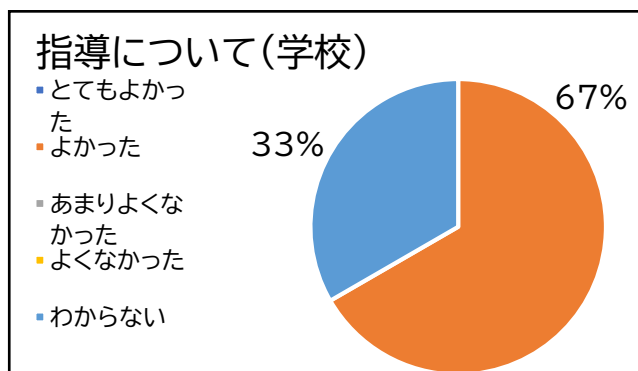
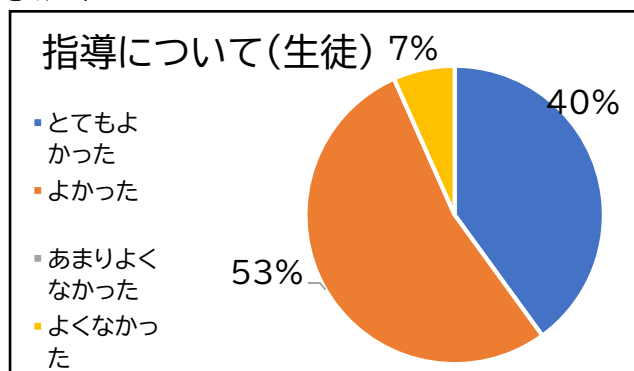
実施回数が少なかったこともあり、保護者から学校への問い合わせなどはなかったが、不安・心配なこととして保護者の記述から「けがや緊急時の対応について」、「指導にあたるコーチの情報について」、「熱中症対策」、「中止の連絡方法」等があげられていた。今後も保護者への丁寧な対応が必要と感じた。

④活動時間について



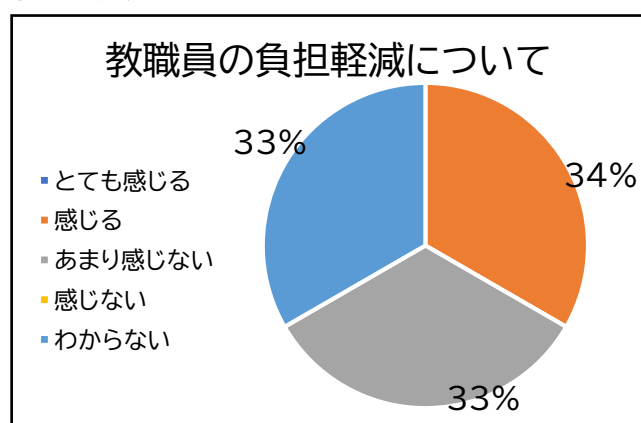
今年度は、部活動ガイドラインの趣旨に準拠した活動をお願いしていた。土気アスリートクラブでの実際の活動も小学生がクラブの大半を占めるため、8:30～10:30の2時間を目安に活動を行っている。クラブコーチのご厚意で、中学生は少し長めの8:30～11:00の2時間半を目安に活動を行った。活動の途中でこまめな水分補給も行い、生徒・保護者も80%が活動時間について「ちょうどよい」と回答している。

⑤指導について



コーチの指導については、生徒の約9割が「とてもよかった」「よかった」と回答している。

⑥教職員の負担軽減について



教師の負担軽減については、実施回数が少なかったため、来年度再度検証していく必要がある。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・教職員への意識調査や意向調査から部活動の課題や地域移行への課題等が明らかになった。
- ・受け入れ団体の選定にあたっては、スポーツ振興課や市のスポーツ協会等から情報提供などの協力を得ることができた。今後も団体の受け皿づくりや指導者の確保についてを連携して行っていきたい。
- ・土気アスリートクラブでの活動については、生徒、保護者からも一定の評価を得ることができた。今後もより丁寧な生徒、保護者への説明、対応を行っていく。
- ・地域運動部活動を行うにあたっての多くの課題を明らかにすることができた。

(2) 課題

- ・千葉市中学校全ての部活動の地域移行を推進するための団体の受け皿づくりや指導者の確保について
受け入れ先の選定にあたっては、今まで以上にスポーツ振興課や市のスポーツ協会等の関係機関と連携をとっていく。
次年度、スポーツ団体への受け入れ調査等を行っていく必要がある。
- ・活動開始に向けての学校、生徒、保護者への説明について
今回4月下旬の部活動説明会の際には、保護者への説明（書面）を行っていたが、実際の活動開始が遅くなってしまい、回数も少なくなってしまった。その要因の一つとして、部活動顧問への事業の趣旨説明の不足があげられる。顧問の協力なしでは、事業を円滑に行うことができないので、より丁寧な説明が学校（顧問も含む）、生徒、保護者に対して必要と感じた。今年度の取組や成果と課題については、校長会等を通して、市内の学校に伝えていく。
- ・休日の地域運動部活動に参加する際の保険の在り方について
今年度は、「スポーツ安全保険」に加入し、全額国費で賄ったが、今後保護者負担とするかや「スポーツ振興センター」との補償内容の差をどうするかなど、国の動向や他市の状況を注視し検討していく必要がある。
- ・各種大会への参加の在り方や登録について
今年度は、大会等実施期間が重ならなかったが、今後各種大会への参加の在り方や登録の在り方について、全国や県の動向を注視するとともに、市のスポーツ協会や他市とも連携を取りながら、検討していく必要がある。
- ・保護者に地域スポーツ活動の費用負担について
今回調査を実施することができなかったが、今後地域に移行するにあたっての大きな課題となってくることが考えられる。来年度調査を実施し、保護者・自治体の費用負担の在り方について整理していく必要がある。
- ・スポーツ団体と生徒・保護者、学校との事故対応や連絡体制の構築
スポーツ団体と学校との打合せを適宜行うことや事故対応や連絡体制等のマニュアルを作成し、活用できるようにしていく。